

## 幼稚園で制作環境が大切にされるわけ

手は「突き出た脳」と言われていて、手を使うことが脳の発達に関係すると言われています。0歳では手が開き、手のひら全体で握ることができるようになります。そのうち腕全体を使って物を取り出したり、つかんだり、たたいたりします。手に物を持つことの大切さはこの辺りにあるようです。そのうち指先でつまむことがじょうずにできるようになります。小さいものも親指と人さし指でつまめるようになると積み木などをじょうずに積み重ねることもでき始めます。両手を同時に使って指先も使えるようになるとボタンはめもできるようになるのですね。できることが増えてくると自然と脳を使って考えています。4歳児さんともなると、はさみを上手に使っていろんな形が切れるようになったり、折り紙を折れるようになったりします。5歳児さんでは、針と糸を使ってサンタのくつ下を作ったり、毛糸でマフラーを編んだりできるようにもなっています。このように発達段階を考えながら先生たちは制作環境を考えています。さらに、そこに既製品でない箱や容器、素材が用意されることで、子どもたちの発想力、思考力などがぐんぐん伸びていくこととなります。

どうやったらくつつくかなあ、何とかここにくつつけたいんだけど  
うまくいかない…、わっこんなのできた！編み針むずかしい、この  
前見たドローンだよ……創意工夫、試行錯誤、忍耐強さ、思考力、  
数量や図形の感覚など様々な力を遊びの中で伸ばしています。

